

CA Performance Management Data Aggregator

リリース ノート

2.4



このドキュメント（組み込みヘルプシステムおよび電子的に配布される資料を含む、以下「本ドキュメント」）は、お客様への情報提供のみを目的としたもので、日本 CA 株式会社（以下「CA」）により随時、変更または撤回されることがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本ドキュメントの全部または一部を複写、譲渡、開示、変更、複本することはできません。本ドキュメントは、CA が知的財産権を有する機密情報です。ユーザは本ドキュメントを開示したり、

(i) 本ドキュメントが関係する CA ソフトウェアの使用について CA とユーザとの間で別途締結される契約または (ii) CA とユーザとの間で別途締結される機密保持契約により許可された目的以外に、本ドキュメントを使用することはできません。

上記にかかわらず、本ドキュメントで言及されている CA ソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本ドキュメントを印刷するまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、上記のライセンスが終了した場合には、お客様は本ドキュメントの全部または一部と、それらを複製したコピーのすべてを破棄したことを、CA に文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、CA は本ドキュメントを現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対して侵害のないことについて、黙示の保証も含めいかなる保証もしません。また、本ドキュメントの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の喪失等、いかなる損害（直接損害か間接損害かを問いません）が発生しても、CA はお客様または第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本ドキュメントで参照されているすべてのソフトウェア製品の使用には、該当するライセンス契約が適用され、当該ライセンス契約はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本ドキュメントの制作者は CA です。

「制限された権利」のもとでの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、ならびに DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

Copyright © 2014 CA. All rights reserved. 本書に記載された全ての製品名、サービス名、商号およびロゴは各社のそれぞれの商標またはサービスマークです。

CA Technologies 製品リファレンス

このドキュメントでは、CA Performance Management の一部を成す、またはこれとの統合を実現する以下の CA Technologies 製品およびコンポーネントを参照します。

- CA Performance Management Data Aggregator
- CA Performance Center
- CA Mediation Manager

CA への連絡先

テクニカル サポートの詳細については、弊社テクニカル サポートの Web サイト (<http://www.ca.com/jp/support/>) をご覧ください。

目次

第 1 章: はじめに	7
新機能と拡張機能.....	8
製品ドキュメント.....	12
技術認定ポータル.....	13
サードパーティ ソフトウェアに関する通知	13
 第 2 章: 展開要件およびシステム要件	 15
Data Aggregator 展開オプション	15
サポートされているブラウザおよび最適化	16
仮想環境要件と SAN 環境要件	17
毎秒 15,000 メトリックまでの小規模展開	17
毎秒 75,000 メトリックまでの中規模展開	20
毎秒 150,000 メトリックまでの大規模展開	24
Java ランタイム サポート	27
 第 3 章: アップグレード要件および考慮事項	 29
サポートされているアップグレード パス	29
自動バックアップ用設定ファイルの更新	30
環境センサに対するアップグレードの影響 - [温度ステータス] (NormalizedTempSensorInfo) メ トリック ファミリーおよびデバイス コンポーネント	31
 第 4 章: 既知の制限	 33
IPv4 と IPv6 の IP アドレス.....	33
デバイス コンテキスト ページ上で、サーバに対して [VMware 仮想マシン] タブが表示されない	33

第 1 章: はじめに

CA Performance Management Data Aggregator をご利用いただき、誠にありがとうございます。Data Aggregator ソフトウェアをインストールする前に、「リリースノート」を確認してください。

このドキュメントには、以下をはじめとする、重要な情報およびインストールに関する注意事項が含まれています。

- 利用可能な製品マニュアル
- サポートされている展開オプション
- システム要件
- アップグレードに関する考慮事項
- 前のリリースからの既知の制限および既知の問題

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[新機能と拡張機能](#) (P. 8)

[製品ドキュメント](#) (P. 12)

[技術認定ポータル](#) (P. 13)

[サードパーティ ソフトウェアに関する通知](#) (P. 13)

新機能と拡張機能

CA Performance Center 2.4 および Data Aggregator 2.4 に以下の機能が追加されました。

注: 新機能および拡張機能の完全なリストについては、「*GA Release Letter*」を参照してください。最新の変更については、製品の *Readme* ファイルを参照してください。

操作性の向上

ナビゲーションの強化

パンくずリストの機能拡張により、グループおよびサイトへのアクセス時間が短縮され、それによりナビゲーションが簡略化されます。現在選択されているグループへのフルパスが表示されるようになりました。ユーザは、サイトまたはグループをクリックすることで、ダッシュボードのコンテキストを変更できます。

サイトリストビューの機能拡張

サイト リストのビュー設定を編集する機能が使用できるようになりました。次の 4 つの選択肢が用意されています。

- すべてのサイト: 選択したグループ下のサイトをすべて表示します。
- 親サイト: 親レベルのすべてのサイトを表示します。
- ピア サイト: 選択されたサイトと同じレベルのすべてのサイトを表示します。
- 子サイト: 選択されたサイトの直接の子を表示します。

RAW 形式での CSV へのエクスポート

単位のない RAW 形式で CSV ファイルにエクスポートします。CSV ファイル内の列ヘッダに単位がリスト表示されるようになりました。

非整数のスコアカードしきい値

スコアカードは、メトリック値を表示するときに、小数点以下をサポートするようになりました。ユーザはまた、スコアカードのビュー設定に 10 進数値を入力できます。

ビューから DA 管理ページへのドリル イン

DA に関連付けられたページから DA 管理者ページに直接アクセスします。この目的で、新しい役割権限「ビューから DA 管理ページへのドリルイン」が作成されています。

すべてのビューを残したままダッシュボードレイアウトの変更が可能

ユーザがダッシュボードのレイアウトを変更した場合、ビューは削除されませんが、その代わり、新しいレイアウトの最初のペインに移動されます。ビューが新しいレイアウトに移動される時、ビューの編集内容はすべて保持されます。

コンポーネントレベルでのポーリングコントロールの強化

ポーリングフィルタ機能がすべてのメトリックファミリに適用されるようになりました。さらに、フィルタ式の作成をサポートするために、新しい UI が作成されました。入れ子の AND/OR/NOT 式など、論理を意味する式がサポートされています。

ユーザ インターフェースの機能拡張

コンテキストビューの固定

新しい [コンテキスト] ドロップダウンを使用して、ダッシュボード設定ダイアログ ボックスから特定のグループにダッシュボードを固定することができます。ビューが選択されたコンテキストに固定されているかどうか、またはビューがページ レベルのコンテキストに固定されているかどうか、ロック アイコンによって示されるようになりました。

ブラウザビューの URL パラメータの設定

ブラウザ ビューを設定するときに、複数の URL パラメータを使用できるようになりました。URL パラメータでは、言語、解像度、およびその他のプロパティを設定できます。各 URL パラメータが意味のあるラベルとして機能するように、識別子を追加することもできます。

グループ ツリーの拡張機能

ユーザがグループを切り替えると、グループ ツリー内で現在選択されているグループが強調表示されます。

より高い解像度でのダッシュボード結果の表示

新しい役割権限である「より高い解像度でのダッシュボードの実行」により、ユーザはダッシュボードを表示する場合に、よりきめ細かに時間範囲を選択できます。この役割権限を持たないユーザは引き続き、CA Performance Center によって設定されたデフォルトの時間範囲に限定されます。

レポート

オン デマンド レポートへのアクセスのカスタマイズ

オン デマンド レポートの表示機能および管理機能へのアクセスを制限するために、次の 2 つの新しい役割権限を割り当てることができます。

オンデマンド レポート テンプレートの作成

ユーザがオン デマンドのレポート テンプレートを作成、編集、削除できます。また、この役割権限によって、オン デマンド レポート テンプレートを表示できる人が特定されます。

オンデマンド レポート テンプレートの実行

ユーザがオン デマンドのレポート テンプレートを実行できます。

API

Open API

設定情報およびメトリック データにアクセスするクエリを構築するための新しいパブリック API です。OpenAPI クエリ ビルダは OData 2.0 標準を使用して URL を生成します。これにより、指定した形式でカスタム メトリック データを表示できます。

ベンダー認定

新しい XML 属性

2 つの新しい一般的な XML 属性がベンダー認定およびメトリック ファミリーに対して作成されました。

- Version
- Author

認定移行ツール

Data Aggregator の新バージョンへのアップグレードにおいて、ユーザーは認定移行ツールを実行することが必要になりました。このツールはインストーラ パッケージに含まれています。認定移行ツールは、ベンダーおよび CAMM の認定とメトリック ファミリーを適切なディレクトリに移動します。

認定インストーラ

ユーザは、REST クライアントを使用して認定をインポートすることに加えて、新しい認定インストーラを使用できるようになりました。インストーラでは、単一の認定または複数の認定のインストールと、特定のディレクトリに置かれた認定のインストールを行うことができます。Data Aggregator マシン上で認定インストーラを実行する必要はありません。このインストーラには Windows 版と Linux 版があります。両方で UI がサポートされています。コマンドラインは Linux 版で利用できます。

製品ドキュメント

CA は、すべての製品について技術マニュアル一式を提供します。CA Performance Management Data Aggregator で利用可能なガイドは、以下のとおりです。

- 概要ガイド
- 管理者ガイド
- インストール ガイド
- アップグレード ガイド
- アンインストール ガイド
- リリース ノート
- 基本的な自己認定ガイド
- パワー ユーザ認定ガイド
- REST Web サービス API ガイド
- レポート情報ベース (RIB) API ガイド
- シナリオ (ユース ケース)

Readme ファイルには、既知の問題と回避策の最新のリストが含まれています。[CA サポート オンライン](#)から最新バージョンの Readme ファイルおよびリリース ノートをダウンロードすることをお勧めします。

これらのガイドは、ドキュメント マニュアル選択メニューから PDF および HTML 形式で開くことができます。CA Performance Center ユーザ インターフェースの [ヘルプ] メニューから、マニュアル選択メニューにアクセスしてください。

[ヘルプ (?)] ボタンをクリックするか、または [ヘルプ] メニューから [このページのヘルプ] を選択すると、ページおよびビューに対応する状況依存のオンライン ヘルプを利用できます。

オンライン ヘルプ システムは、設定タスク、ユーザ インターフェースの移動、およびパフォーマンス データに関する詳細情報が必要な場合に使用します。

技術認定ポータル

技術認定ポータルには、Data Aggregator バージョン、ベンダー認定、メトリック ファミリ別にすぐに使用できる認定が一覧表示されています。

<http://serviceassurance.ca.com/im/> <http://serviceassurance.ca.com/im/>

サードパーティソフトウェアに関する通知

Data Aggregator の作成には、サードパーティ ソフトウェアが使用されています。すべてのサードパーティ ソフトウェアは、該当の使用許諾契約に規定されているとおりに、使用、複製、および配布に関する条件に従って使用されています。

サードパーティ使用許諾契約は、テキスト ドキュメント (caim_thirdpartycontent.txt) と PDF で用意されています。これらは、Data Aggregator ソフトウェアとともにインストールディレクトリに自動的にインストールされます。

第 2 章：展開要件およびシステム要件

このセクションには、以下のトピックが含まれています。

[Data Aggregator 展開オプション](#) (P. 15)
[サポートされているブラウザおよび最適化](#) (P. 16)
[仮想環境要件と SAN 環境要件](#) (P. 17)
[毎秒 15,000 メトリックまでの小規模展開](#) (P. 17)
[毎秒 75,000 メトリックまでの中規模展開](#) (P. 20)
[毎秒 150,000 メトリックまでの大規模展開](#) (P. 24)
[Java ランタイム サポート](#) (P. 27)

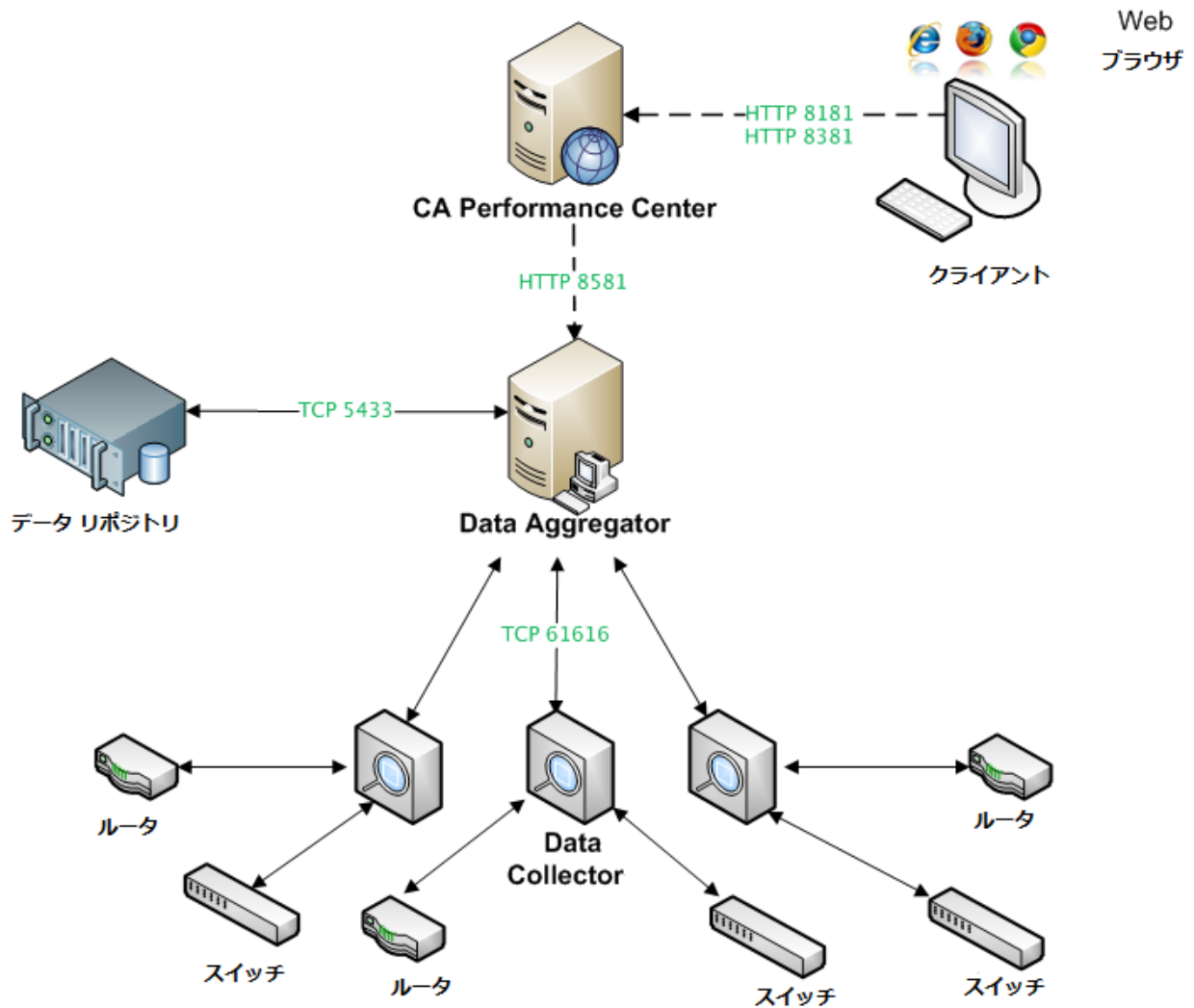
Data Aggregator 展開オプション

必要とする監視の程度に応じて、Data Aggregator の展開には 3 つのオプションがあります：

- 小規模展開では、最大 100,000 のデバイスおよびコンポーネントの監視に対して、毎秒 15,000 のメトリックを処理できます。
- 中規模展開では、最大 500,000 のデバイスおよびコンポーネントの監視に対して、毎秒 75,000 のメトリックを処理できます。
- 大規模展開では、最大 1,000,000 のデバイスおよびコンポーネントの監視に対して、毎秒 150,000 のメトリックを処理できます。

注：中規模および大規模の展開に対しては、クラスタ化された Data Repository 展開（3 つのノードに基づいた）をお勧めします。

以下の図に、各コンポーネントがどのように協調動作するかを示します。



サポートされているブラウザおよび最適化

以下のブラウザがサポートされています。

- Microsoft Internet Explorer バージョン 8（互換モードがオフの状態）
- Google Chrome（最新バージョン）
- Mozilla Firefox（最新バージョン）

ユーザの操作性を最適にするために、Internet Explorer 8 を互換表示モードで実行しているときは CA Performance Center のページを表示しないでください。Internet Explorer 8 Developer Tools がインストールされている場合は、キーボードで F12 キーを押して互換モードをチェックします。メインメニューに「ブラウザ モード: IE 8 互換表示」と表示される場合は、このメニュー アイテムをクリックして、「Internet Explorer 8」を選択します。この変更は、現在のブラウザセッションのみに影響します。グループポリシーによって、内部 Web サイトの場合は Internet Explorer 8 ブラウザが互換モードで動作するように強制されることがあります。これらの場合、Google Chrome または Mozilla Firefox の使用をお勧めします。

仮想環境要件と SAN 環境要件

CA サポート オンラインにあるドキュメント「*CA Support Statement for Running CA Infrastructure Management Products in Virtualization and SAN Environments*」を参照してください。

https://support.ca.com/phpdocs/7/5637/CA_Support_Statement_for_Running_CA_NIM_Products_in_Virtualization_Environments.pdf

このドキュメントでは、仮想サーバまたは Storage Array Networks (SAN) への Infrastructure Management 製品のインストールおよび操作に関する CA ポリシーを説明しています。CA サポート オンラインでドキュメントを表示するには、登録ユーザとしてログインする必要があります。

毎秒 15,000 メトリックまでの小規模展開

以下の情報は、100,000 までの監視対象デバイスおよびコンポーネントに対して、毎秒 15,000 のメトリックをサポートする小規模展開の要件を説明しています。この展開は、以下の 4 つのホストの仮想マシン環境で設定できます。

- 1 つの CA Performance Center ホスト
- 1 つの Data Repository ホスト
- 1 つの Data Aggregator ホスト
- 1 つの Data Collector ホスト

注: CA Performance Center のシステム要件の詳細については、「CA Performance Center リリース ノート」を参照してください。

Data Repository の要件

以下の表は、Data Repository ホストをインストールするための最小システム要件を示しています。

コンポーネント	要件
オペレーティング システム	Red Hat Enterprise Linux 5.x for x64 Red Hat Enterprise Linux 6.x for x64 注: 既存の RH5 Vertica インストールから RH6 インストールへのアップグレードはサポートされていません。
プロセッサ	専用の仮想 CPU 2 つ
プロセッサの速度	2.0 GHz
メモリ (RAM)	16 GB
ディスク領域	以下のディレクトリ用に 3 つのパーティションが必要です。 <ul style="list-style-type: none">■ カタログ ディレクトリ■ データ ディレクトリ■ バックアップ データ ディレクトリ 注: ディスク容量の詳細については、システムサイジング ツール (support.ca.com の「Recommended Reading」セクションで利用可能) を参照してください。
ディスク入出力	200 メガバイト/秒

Data Aggregator 要件

以下の表は、Data Aggregator ホストをインストールするための最小システム要件を示しています。

コンポーネント	要件
オペレーティング システム	Red Hat Enterprise Linux 5.x for x64 Red Hat Enterprise Linux 6.x for x64 注: 既存の RH5 Vertica インストールから RH6 インストールへのアップグレードはサポートされていません。
プロセッサ	専用の仮想 CPU 2 つ
プロセッサの速度	2.0 GHz
メモリ (RAM)	16 GB
ディスク領域	50 GB 注: データ エクスポートを 1 時間使用する場合は、別途 5 GB のパーティションが必要になります。
ディスク入力/出力	100 メガ バイト/秒

注: データのロードプロセスは、ポーリングされたデータを Data Repository にロードする前に、すべてを Data Aggregator 上のファイルに保存するように再設計されました。ポーリングされたデータのファイルは、Data Repository にロードされた後に削除されます。このため、Data Aggregator 上の使用可能なディスク容量は時間とともに変動します。

Data Collector 要件

以下の表は、Data Collector ホストをインストールするための最小システム要件を示しています。

コンポーネント	要件
オペレーティング システム	Red Hat Enterprise Linux 5.x for x64 Red Hat Enterprise Linux 6.x for x64 注: 既存の RH5 Vertica インストールから RH6 インストールへのアップグレードはサポートされていません。
プロセッサ	専用の仮想 CPU 2 つ
プロセッサの速度	2.0 GHz
メモリ (RAM)	12 GB
ディスク領域	50 GB
ディスク入出力	100 メガバイト/秒

注: 前提条件の手順およびインストールの詳細については、「*Data Aggregator インストールガイド*」を参照してください。

毎秒 75,000 メトリックまでの中規模展開

以下の情報は、500,000 までの監視対象デバイスおよびコンポーネントに対して、毎秒 75,000 のメトリックをサポートする中規模展開の要件を説明しています。この展開は、以下の 6 つのホストの物理マシン環境で設定できます。

- 1 つの CA Performance Center ホスト
- クラスタ内の 3 つの Data Repository ホスト
- 1 つの Data Aggregator ホスト
- 1 つの Data Collector ホスト

注: CA Performance Center のシステム要件の詳細については、「*CA Performance Center リリース ノート*」を参照してください。

Data Repository の要件

以下の表は、各 Data Repository ホストをインストールするための最小システム要件を示しています。

重要： この展開は単一のノード Data Repository 環境で機能しますが、3 つのノードクラスタ環境の使用を強くお勧めします。

コンポーネント	要件
オペレーティング システム	Red Hat Enterprise Linux 5.x for x64 Red Hat Enterprise Linux 6.x for x64 注: 既存の RH5 Vertica インストールから RH6 インストールへのアップグレードはサポートされていません。
プロセッサ	8 コア
プロセッサの速度	2.0 GHz
メモリ (RAM)	64 GB
ディスク領域	以下のディレクトリ用に 3 つのパーティションが必要です。 <ul style="list-style-type: none"> ■ カタログディレクトリ ■ データディレクトリ ■ バックアップデータディレクトリ 注: ディスク容量の詳細については、システムサイジング ツール (support.ca.com の「Recommended Reading」セクションで利用可能) を参照してください。
ディスク入出力	200 メガバイト/秒

Data Aggregator 要件

以下の表は、Data Aggregator ホストをインストールするための最小システム要件を示しています。

コンポーネント	要件
オペレーティング システム	Red Hat Enterprise Linux 5.x for x64 Red Hat Enterprise Linux 6.x for x64 注: 既存の RH5 Vertica インストールから RH6 インストールへのアップグレードはサポートされていません。
プロセッサ	8 コア
プロセッサの速度	2.0 GHz
メモリ (RAM)	32 GB
ディスク領域	50 GB 注: データ エクスポートを 1 時間使用する場合は、別途 25 GB のパーティションが必要になります。
ディスク入出力	100 メガ バイト/秒

注: データのロードプロセスは、ポーリングされたデータを Data Repository にロードする前に、すべてを Data Aggregator 上のファイルに保存するように再設計されました。ポーリングされたデータのファイルは、Data Repository にロードされた後に削除されます。このため、Data Aggregator 上の使用可能なディスク容量は時間とともに変動します。

Data Collector 要件

以下の表は、Data Collector ホストをインストールするための最小システム要件を示しています。

注: これらの要件は、Data Collector インスタンスで 500,000 までのデバイスおよびコンポーネントを監視するためのものです。実際には、監視対象デバイスおよびコンポーネントの合計容量が 500,000 を超えない限り、複数のより小規模な Data Collector インスタンスで代用できます。たとえば、1 つの大規模なインスタンスに相当する、5 つの仮想 Data Collector インスタンスを使用できます。Data Collector が監視しているデバイスおよびコンポーネントの数は、Data Collector リスト ビューで確認できます。Data Collector リスト ビューの詳細については、「*Data Aggregator 管理者ガイド*」を参照してください。

コンポーネント	要件
オペレーティング システム	Red Hat Enterprise Linux 5.x for x64 Red Hat Enterprise Linux 6.x for x64 注: 既存の RH5 Vertica インストールから RH6 インストールへのアップグレードはサポートされていません。
プロセッサ	4 コア
プロセッサの速度	2.0 GHz
メモリ (RAM)	32 GB
ディスク領域	50 GB
ディスク入出力	100 メガ バイト/秒

注: 前提条件の手順およびインストールの詳細については、「*Data Aggregator インストールガイド*」を参照してください。

毎秒 150,000 メトリックまでの大規模展開

以下の情報は、100 万までの監視対象デバイスおよびコンポーネントに対して、毎秒 150,000 のメトリックをサポートする大規模展開の要件を説明しています。この展開は、以下の 7 つのホストの物理マシン環境で設定できます。

- 1 つの CA Performance Center ホスト
- クラスタ内の 3 つの Data Repository ホスト
- 1 つの Data Aggregator ホスト
- 2 つの Data Collector ホスト

注: CA Performance Center のシステム要件の詳細については、「*CA Performance Center リリース ノート*」を参照してください。

Data Repository の要件

以下の表は、各 Data Repository ホストをインストールするための最小システム要件を示しています。

コンポーネント	要件
オペレーティング システム	Red Hat Enterprise Linux 5.x for x64 Red Hat Enterprise Linux 6.x for x64 注: 既存の RH5 Vertica インストールから RH6 インストールへのアップグレードはサポートされていません。
プロセッサ	12 コア
プロセッサの速度	2.5 GHz
メモリ (RAM)	96 GB

コンポーネント	要件
ディスク領域	<p>以下のディレクトリ用に 3 つのパーティションが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ カタログディレクトリ ■ データディレクトリ ■ バックアップデータディレクトリ <p>注: ディスク容量の詳細については、システムサイジングツール (support.ca.com の「Recommended Reading」セクションで利用可能) を参照してください。</p>
ディスク入出力	200 メガバイト/秒

Data Aggregator 要件

以下の表は、Data Aggregator ホストをインストールするための最小システム要件を示しています。

コンポーネント	要件
オペレーティングシステム	<p>Red Hat Enterprise Linux 5.x for x64</p> <p>Red Hat Enterprise Linux 6.x for x64</p> <p>注: 既存の RH5 Vertica インストールから RH6 インストールへのアップグレードはサポートされていません。</p>
プロセッサ	12 コア
プロセッサの速度	2.5 GHz
メモリ (RAM)	48 GB
ディスク領域	<p>100 GB</p> <p>注: データエクスポートを 1 時間使用する場合は、別途 5 GB のパーティションが必要になります。</p>
ディスク入出力	100 メガバイト/秒

注: データのロードプロセスは、ポーリングされたデータを **Data Repository** にロードする前に、すべてを **Data Aggregator** 上のファイルに保存するように再設計されました。ポーリングされたデータのファイルは、**Data Repository** にロードされた後に削除されます。このため、**Data Aggregator** 上の使用可能なディスク容量は時間とともに変動します。

Data Collector 要件

以下の表は、各 **Data Collector** ホストをインストールするための最小システム要件を示しています。

重要: この情報は 2 つの **Data Collector** インスタンスのそれぞれに固有です。実際には、監視対象デバイスおよびコンポーネントの合計容量が 100 万を超えない限り、複数のより小規模な **Data Collector** インスタンスで代用できます。たとえば、1 つの大規模なインスタンスに相当する、5 つの仮想 **Data Collector** インスタンスを使用できます。**Data Collector** が監視しているデバイスおよびコンポーネントの数は、**Data Collector** リストビューで確認できます。**Data Collector** リストビューの詳細については、「**Data Aggregator 管理者ガイド**」を参照してください。

コンポーネント	要件
オペレーティング システム	Red Hat Enterprise Linux 5.x for x64 Red Hat Enterprise Linux 6.x for x64 注: 既存の RH5 Vertica インストールから RH6 インストールへのアップグレードはサポートされていません。
プロセッサ	4 コア
プロセッサの速度	2.5 GHz
メモリ (RAM)	32 GB
ディスク領域	50 GB
ディスク入力/出力	100 メガ バイト/秒

注: 前提条件の手順およびインストールの詳細については、「**Data Aggregator インストール ガイド**」を参照してください。

Java ランタイム サポート

Java 7 ランタイム 64 ビットがサポートされています。

第 3 章: アップグレード要件および考慮事項

Data Aggregator をアップグレードする場合は、以下の情報を確認します。

サポートされているアップグレード パス

Data Aggregator の以前のリリースからアップグレードする場合は、ご使用のコンポーネントをアップグレードします。CA Performance Center、Data Aggregator、および Data Collector のコンポーネントは常にアップグレードする必要があります。以下の表で識別されたリリースにアップグレードしている場合、Data Repository をアップグレードします。

重要: リリース 2.0.00 からリリース 2.3.4 にアップグレードする場合は、最初に、リリース 2.1.00 に、続けてリリース 2.2.x にアップグレードした後、リリース 2.3 にアップグレードします。

以下の表に、サポートされるアップグレードパスと、アップグレードが必要なコンポーネントを示します。

リリース	CA Performance Center コンポーネント	Data Aggregator コンポーネント	Data Collector コンポーネント	Data Repository コンポーネント
リリース 2.0.00 からリリース 2.1.00	アップグレードが必要	アップグレードが必要	アップグレードが必要	アップグレードは不要
リリース 2.1.00 からリリース 2.2.00	アップグレードが必要	アップグレードが必要	アップグレードが必要	アップグレードが必要
リリース 2.2.00 からリリース 2.2.1	アップグレードが必要	アップグレードが必要	アップグレードが必要	アップグレードは不要

リリース	CA Performance Center コンポーネント	Data Aggregator コンポーネント	Data Collector コンポーネント	Data Repository コンポーネント
リリース 2.2.00/2.2.1 から 2.2.2	アップグレードが必要	アップグレードが必要	アップグレードが必要	アップグレードが必要
リリース 2.2.[1、2、3] から 2.3.[0、1、2、3]	アップグレードが必要	アップグレードが必要	アップグレードが必要	アップグレードは不要
リリース 2.2.x から 2.3.4	アップグレードが必要	アップグレードが必要	アップグレードが必要	アップグレードが必要 注: Vertica Release 7 はリリース 2.3.4 で導入されています。
リリース 2.3.[0、1、2、3] から 2.3.4	アップグレードが必要	アップグレードが必要	アップグレードが必要	アップグレードが必要 注: Vertica Release 7 はリリース 2.3.4 で導入されています。

注: Data Aggregator コンポーネントのアップグレードの詳細については、「Data Aggregator インストールガイド」を参照してください。2.3.x 以前のリリース用のアップグレード要件および考慮事項の詳細については、アップグレードしているリリースの「リリースノート」または「修正された問題」ファイルを参照してください。

自動バックアップ用設定ファイルの更新

Data Repository コンポーネントの自動バックアップをセットアップするときには、設定ファイルを作成します。

注: CA Performance Management 2.3.4 からアップグレードする場合は、設定ファイルの更新手順を実行する必要はありません。

Data Repository コンポーネントのアップグレード後、新しい設定ファイルを作成することを強くお勧めします。リリース 2.4 では、Data Repository コンポーネントをアップグレードすると、Vertica 7 にアップグレードされます。Vertica 7 データベースにアップグレードしても、Vertica 6 設定ファイルは機能しますが、Vertica 7 では設定ファイルの形式が変更されています。将来的には、Vertica 6 設定ファイル形式が使用できなくなる可能性もあります。

設定ファイルを作成する方法の詳細については、「Data Aggregator インストールガイド」（CLI、ウィザードまたはサイレント）を参照してください。

環境センサに対するアップグレードの影響 - [温度ステータス] (NormalizedTempSensorInfo) メトリック ファミリおよびデバイス コンポーネント

環境センサに基づいて検出された新しいデバイス コンポーネント - [温度ステータス] メトリック ファミリには、製品購入時から使用可能な新しいコンテキスト ページが追加されました。ただし、環境センサに関連付けられている既存のデバイス コンポーネントである [温度ステータス] は、別のコンテキスト ページ上に表示されることがあります。これは履歴データを保持できるように設計されています。新しく検出されたデバイス コンポーネントと既存のデバイス コンポーネントを同じコンテキスト ページに表示するには、対応するデバイスを削除し、再検出します。

第 4 章：既知の制限

IPv4 と IPv6 の IP アドレス

デバイスが IPv4 IP アドレスおよび IPv6 IP アドレスの両方をサポートする場合は、IPv4 IP アドレスでデバイスを検出します。その後、同じデバイスの IPv6 アドレスが含まれるディスカバリ プロファイルを作成すると、IPv6 アドレスで重複したデバイス アイテムが作成される可能性があります。

デバイスコンテキスト ページ上で、サーバに対して [VMware 仮想マシン] タブが表示されない

症状：

Application Delivery Analysis データ ソースがある場合、デバイス コンテキスト ページ上で、[VMware 仮想マシン] タブはサーバに対して表示されません。

解決方法：

この既知の問題を回避するには、VMware の概要ページに移動し、目的の仮想マシンのコンポーネント コンテキスト ページまでドリルダウンします。